

社会福祉法人 たかしま会 魅力発信経営報告書

求める福祉がここにある
地域とともに 福祉を創る たかしま会

令和3年4月1日発行

目次

まえがき	-----	1	Ⅲ. 人的資産		
法人理念	-----	2		法人本部の人的資産	----- 2 0
法人の沿革	-----	3		高齢者を支える人的資産	----- 2 1
法人事業の概要	-----	4		障がい者を支える人的資産	----- 2 2
事業内容	-----	5		人材育成の仕組み	----- 2 4
I. 法人の魅力	恵まれた自然環境	----- 6	Ⅳ. 現在及び今後の課題	-----	2 5
	充実した施設整備	----- 7	V. 私たちが実現したいこと	-----	2 6
II. 事業の強み	藤波園	----- 8		法人本部	----- 2 7
	藤波園の魅力	----- 9		藤波園	----- 2 8
	陽だまり	----- 1 0		陽だまり	----- 2 9
	陽だまりの魅力	----- 1 1		藤美寮	----- 3 0
	藤美寮・グループホーム ・相談事業	----- 1 2		藤の樹工房	----- 3 1
	藤美寮の魅力	----- 1 3	中期財政計画	-----	3 2
	アンフィニの魅力	----- 1 6	あとがき	-----	3 3
	藤の樹工房	----- 1 7			
	藤の樹工房の魅力	----- 1 8			

まえがき

平成29年4月の社会福祉法人改革では、社会福祉をめぐる状況が大きく変化している中で、多様化・複雑化する福祉ニーズに対してこれまで以上に公益性の高い事業運営が社会福祉法人に求められました。

また、平成30年4月施行の社会福祉法の改正では「地域共生社会」の実現が打ち出され、福祉分野以外との連携・協働が社会福祉法人に求められています。

そうした中、社会福祉法人たかしま会は、昭和44年の法人設立以来高齢者福祉と障がい者福祉の両面から社会福祉事業を営みつつ、令和元年9月法人設立50周年を迎えました。その際、時代背景をしっかりと認識し、今後も近江聖人中江藤樹の遺徳である「誰でも努力すれば立派な人間になれる」という創設の精神を大切にしながら、社会福祉法人として自らの資源を生かし地域のまちづくりの中核的存在として、地域福祉の発展に邁進する決意を新たにしたところです。

これまで社会保障や社会福祉に関する法改正の中、新しい時代とニーズの変化に対応しながら事業運営に取り組んできましたが、法人設立50周年を契機にその決意を具現化するため、この度「第1期中期経営計画」（2021年度～2023年度）の策定に取り組みました。

本経営計画では、法人理念のもと私たちが目指す姿を「**求める福祉が ここにある 地域とともに 福祉を創る たかしま会**」とし、15項目の基本方針（ビジョン）を定めるとともに、それぞれの項目に沿った事業所の取り組みを行動計画（アクションプラン）として取りまとめました。

「公器としての社会福祉法人」の原点に立ち返り、地域におけるさまざまな福祉需要にきめ細かく対応し、制度の狭間にある人々を救済していくために、地域の皆様と創意工夫の中で新たな福祉を創り、またそれらサービスを実践していくための組織づくりを目指すものであります。そのため、まずは法人本部機能の充実を図り各事業所が一丸となってその体制整備に取り組む内容となっております。

計画の策定に当たって役職員が業務繁忙の中にも関わらず、これまでの半世紀に及ぶ法人運営を振り返り、法人を取り巻く外部環境や内部環境を熱心に議論し、客観的分析ができたことは、誠に意義深くここに関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、今後は本経営計画を「道標」として、地域住民の期待にこたえるべき法人経営を進めてまいります。

理事長 橋本 良男

法人理念

- ◆ 近江の聖人中江藤樹の遺徳を仰ぎ「誰でも努力すれば立派な人間になれる」という創設の精神を尊び、事業運営を行っていきます。
- ◆ 福祉サービスの利用者に対して、尊厳を保持しかつ幸福や安全を保障するとともに、各々の能力に応じた自立支援を行い、利用者本位の良質かつ適切なサービスを提供していきます。
- ◆ 地域福祉推進のため地域の拠点事業所としての質的向上に努め、地域住民との相互理解や協力を得て、地域の要望に応じた事業を展開し、地域の福祉向上に寄与していきます。

近江聖人「中江藤樹」先生について

1608(慶長13)-1648(慶安元)

江戸時代初期の儒学者。わが国における陽明学の開祖。近江国高島郡小川村（現在の滋賀県高島市安曇川町上小川）に、中江吉次の長男として生まれました。藤樹とは号でなく、屋敷に生えていたフジの老樹から門人たちが《藤樹先生》と呼んだ尊称に由来しています。やがて藤樹は私塾を開きました。同時に自ら医学を学び、村の学問の先生兼医者という存在になっていきます。

藤樹は儒学だけでなく、望む者には医学も教えました。その中に大野了佐がいます。了佐は藤樹の友人の息子でしたがやや知的障がいがありました。しかし本人は医者になることを望んでおり、藤樹もそれならばと入門を許して漢文の医学書を読ませますが、冒頭の数フレーズを覚えるのに半日以上かかり、しかも食事を済ませるとすべて忘れていた有様でした。藤樹も教えるのに精魂尽き果てる状態になりますが、けなげに毎日通ってくる了佐を見捨てることはできず、了佐のために平易なテキストにつくり直して、根気よく教え続けて、ついに了佐を一人前の医者として独立させるのです。単に聖人の道を教えるのではなく、こうした弟子の育成と一緒にあって全力を尽くす人間性を含めて、藤樹は「近江聖人」と呼ばれることになりました。

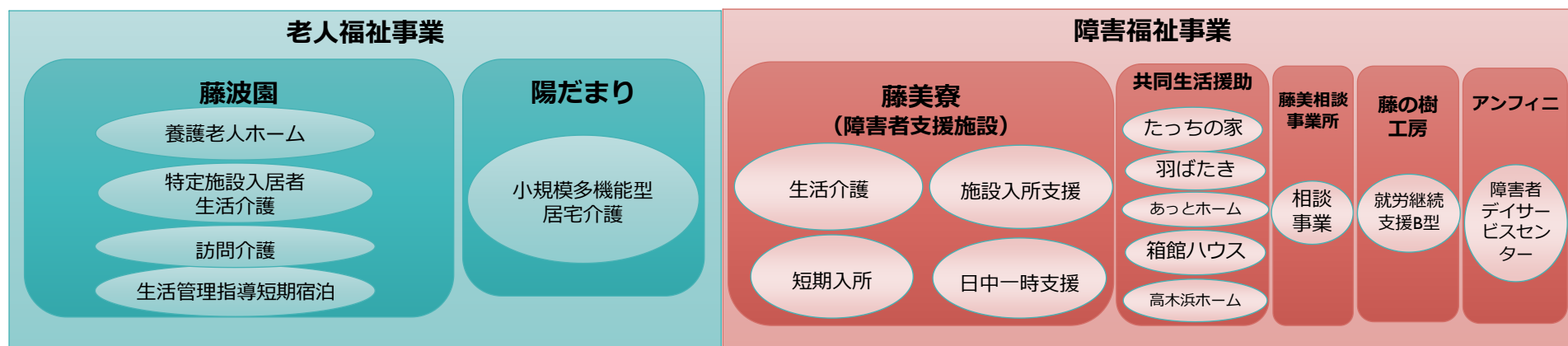
私たちは、藤樹先生の遺徳を仰ぎ藤にちなんだ名前をいただき、どんな人もその人らしく地域と共に暮らしを支えていきます。

法人の沿革

昭和44年 9月	法人設立認可される。
昭和44年10月	養護老人ホーム（藤波園）（定員60名）を開設。
昭和53年 4月	精神薄弱者更生施設（藤美寮）（定員50名）を開設。
平成 3年11月	精神薄弱者短期入所事業（定員2名）開始。
平成12年 4月	精神障害者共同作業所（藤の樹工房）（定員10名）を開設。
平成14年 1月	藤波園生活管理指導短期宿泊事業（定員2名）を開始。
平成15年 7月	藤美寮児童短期入所事業を開始し、短期入所事業の定員は4名となる。
平成17年 4月	共同生活介護事業所（たっちの家）（定員4名）を開設。
平成18年 4月	共同生活介護事業所（羽ばたき）（定員7名）を開設。
	小規模多機能型居宅介護事業（陽だまり）（定員18名）を開設。
	藤波園外部サービス利用型特定施設入居者生活事業と訪問介護事業を開始する。
	高島市安曇川障害者デイサービスセンター「アンフィニ」の受託経営事業を開始。
	藤美寮日中一時支援事業を開始。
平成18年10月	相談支援事業所（精神障害者地域生活支援センター藤の樹）を開設。
平成19年10月	新制度移行に伴い、障害者支援施設（施設入所支援・生活介護）藤美寮となる。
平成19年11月	就労継続支援B型事業所（藤の樹工房）（定員27名）を開設。
平成20年 4月	共同生活介護事業所（あっとホーム）（定員4名）を開設。
平成23年 2月	共同生活介護事業所（箱館ハウス）（定員4名）を開設。
平成23年 2月	藤波園と藤美寮の移転合体改築が完成する。
平成24年 3月	障害者相談支援センターが統合された事に伴い、相談支援事業所（精神障害者地域生活支援センター藤の樹）を廃止する。
平成24年 6月	藤美寮短期入所事業の定員を6名に増員。
平成26年 4月	藤美相談支援事業所を開設する。 制度改正に伴い、共同生活介護4事業所は共同生活援助事業所（介護サービス包括型）となる。
平成27年 1月	共同生活援助事業所（高木浜ホーム）（定員4名）を開設。
平成30年 3月	小規模多機能型居宅介護事業所陽だまり（登録定員29名）を改築。

法人事業の概要

- ◆ 県下で唯一、老人福祉施設と障害者支援施設の一体型施設となった「藤波園」・「藤美寮」を中心に、市内一円で10事業所13事業の老人福祉・障害者支援事業を展開している。老人福祉と障害福祉の両面から事業展開し、児童から高齢者までの障がい者と自立的な生活が困難な高齢者の生活支援にかかる多様なサービスを行っている。
- ◆ 特に、障がい者の支援においては、法人内で障がい者の相談・通所サービス・ショートステイ・施設入所・グループホーム・就労継続支援等・総合的に支援できるシステムが構築されている。
- ◆ 50年を超える活動の中で、地域とのつながりも良好で、各事業所ともに、地元住民やボランティアと密接である。（ふじみ寮祭り、耕作放棄地の借用等）



職員総数137名 利用者総数230名（令和3年4月現在）

地域貢献事業「行こカー」サービス

法人が所有する車両を活用して、地域に住む高齢者の買い物等の支援を行っている。今後も社会福祉法人という立場で、地域課題の解決に取り組んでいく。

※ 対象地域 マキノ北地区（在原区・下区・浦区・山中区・小荒路区・野口区）



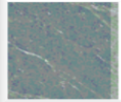
事業内容

高齢者福祉事業

- 藤波園：養護老人ホーム：60名、短期宿泊事業：2名
- 陽だまり：小規模多機能型居宅介護事業所：29名

障害福祉事業

- 藤美寮：障害者支援施設
（施設入所支援：46名、生活介護：50名、短期入所：6名、日中一時支援）
- グループホーム：共同生活援助（介護サービス包括型）
（たっちの家：4名、羽ばたき：7名、あっとホーム：4名、箱館ハウス：4名、高木浜ホーム：4名）
- 藤美相談支援事業所
- アンフィニ：地域活動支援センター（高島市安曇川障害者デイサービスセンター）
（高島市委託事業）：15名
- 藤の樹工房：就労継続支援B型事業所：27名



I. 法人の魅力：恵まれた自然環境に囲まれて

● 高島市の豊かな四季



メタセコイヤ並木



海津大崎の桜



白鬚神社



ザゼンソウ



小入谷の雲海

I. 法人の魅力：充実した施設整備

● 藤波園・藤美寮



従来、今津町にあった養護老人ホーム藤波園とマキノ町にあった障害者支援施設藤美寮を合体改築とすることで、高齢障がい者や社会的な困難を抱える高齢者を包括的に支援できる体制が整いました。
今後は、地域共生型社会の流れの中、老人福祉施設と障害者支援施設の垣根を越えた取り組みを積極的に行い、利用者や職員間の交流・地域イベントの共同参加等に取り組んでいます。

● 藤の樹工房



● 陽だまり



● アンフィニ



● グループホーム

たっちの家



羽ばたき



あっとホーム



箱館ハウス



高木浜ホーム





Ⅱ．事業の強み：藤波園（養護老人ホーム）

尊厳のある生活の場（生きがいを持ち、利用者同士が交流して安心な暮らし）を提供

藤波園

養護老人ホーム (定員60名)

市町村からの措置による入所施設

特定施設入居者 生活介護

養護老人ホーム入居者の
介護保険対応施設
【外部サービス利用型】

訪問介護 事業所

特定施設の委託を受け
介護サービス実施

短期宿泊 (定員2名)

措置または
実費利用

- ◆経済的・家庭的に困窮した高齢者のセーフティネットであり、最後まで尊厳のある生活の場として養護老人ホームを運営しています。
- ◆要介護になっても継続して入居できるよう、特定施設入居者生活介護事業および訪問介護事業を行っています。
- ◆職員に、虐待や困難な事例を受け入れるスキルがあります。
- ◆その人の尊厳を守り、生きる楽しみ、社会的な交流の場として、クラブ活動やイベントを活発に行っています。
- ◆外出が自由にでき、買い物デー等の行事もあります。
- ◆体力の維持向上のため、理学療法士の助言を得て転倒防止等に取り組んでいます。
- ◆県内には養護老人ホームが6施設あり、連携をとっています。
- ◆障害者施設と併設し、地域活動等を共同で行っています。
- ◆入居者の状況に応じて葬儀を施設で執り行っています。また、納骨堂もあり人生の最期まで尊厳のある生活を支援しています。



藤波園の魅力（尊厳のある生活の場の提供）

本人の意欲向上や生活の場となる活動

老人会

自主運営組織である「老人会」では、月に1回常会を開催し、快適な生活ができるよう入居者より意見を求めています。

買い物デー

訪問販売で買い物を楽しんでいます。



地域との交流や支援

保育園児の慰問

市内の園児の慰問を受け楽しいひとときを過ごしています。

ふじみ寮祭りへ出演

ふじみ寮祭りでは、沢山の来場者の前で入居者と職員が一体となって歌等を披露しています。

介護が必要となっても安心な暮らしの継続

敬老のお祝い



静養室



人材育成の仕組み

職員研修



利用者に適切な対応ができるよう各種研修に参加し、専門知識の習得と支援技術の向上に努めています。



Ⅱ. 事業の強み：陽だまり

(小規模多機能型居宅介護支援事業所)

住み慣れたこの町で、安心できる暮らしのお手伝い

通いサービス
定員15名

- ・利用時間、食事時間等柔軟な対応が可能です。
- ・野菜づくり等生活機能の維持や向上を目指したプログラムを提供しています。

訪問介護
サービス

- ・一日複数回の訪問等、柔軟な訪問介護サービスが可能です。

宿泊サービス
定員6名

- ・家族の急な不在時にも対応することが可能です。
- ・退院後の不安な時期でも利用できます。



介護の必要性に合わせて柔軟に、通い・訪問・泊りができます。

★こんな利用の仕方ができます。

短時間訪問による服薬支援や排泄、生活支援により在宅生活の些細な困りごとにも対応します。

家族の急な不在時に、通いながら当施設での宿泊や食事等のサービスを利用して安心と安全な暮らしを継続できます。

病院や老人保健施設からの退院等、介護不安定な時期を当施設の宿泊サービスを利用しつつ、在宅生活を支援します。



陽だまりの魅力（活動内容）

本人の意欲向上を目的として



園芸作業



書道

畑も旧施設の頃の倍以上に拡張し、日々の食事に自家製野菜を提供しています。また、本人の生きがいの場となるよう様々なレクリエーションを企画し、「楽しかった」と言ってもらえる場を提供しています。

地域交流



地域や利用者の社会交流を目的に地区の祭りやボランティアの活動を積極的に受け入れています。

地域との交流や支援



演芸ボランティア活動

職員の教育とケアの向上の取り組み



多職種連携ケア会議

様々な研修に参加しています。また、近隣施設との情報交換を通じて、ケアの向上を目指しています。



Ⅱ．事業の強み：藤美寮・グループホーム・相談事業

障がい事業全体を支える仕組みの強化により、利用者一人ひとりに適した豊かな生活の実現

地域で暮らす障がい者を支える仕組み
(児童、成人、高齢、家族、一人暮らし等様々な課題を持っていても地域で暮らす)

家族とのつながりの中で暮らす仕組み

相談
事業

地域の中で暮らす仕組み

生活介護

常時介護を必要とする障がい者に、入浴・排泄・食事の支援、創作活動や生産活動の機会等の提供の他、身体や生活能力の向上のために必要な支援を提供

施設入所支援

夜間や休日に入浴・排泄・食事の支援、余暇、生活等に関する相談・助言の他、必要な日常生活上の支援を提供

グループホーム

障がい者が、入浴・排泄・食事の支援等を受けながら、共同生活を提供
(5か所 定員23名)

アンフィニ

障がい者が、通いで食事・入浴の支援や創作活動・生活能力の向上・社会との交流の機会等を提供

藤 美 寮

地域での暮らしが困難な障がい者が安心して暮らせる施設サービス

日中一時支援事業

障がい者等の家族の就労及び介護負担の軽減を支援するため、宿泊を伴わない日中活動における一時的な支援を提供

短期入所事業

障がい者等の家族の就労及び介護負担の軽減を支援するため、障害者支援施設に宿泊し、入浴・排泄・食事の支援等を提供



藤美寮の魅力（一人ひとりの喜びと地域の支え）

本人の意欲向上や喜びとなる活動

地域との交流や支援



創作活動



楽しく仲間や職員と遊ぶ

地域貢献事業の一つである「ふじみ寮祭り」は、地域の各種団体や住民の方で実行委員会を立ち上げ企画・運営をしています。



クリスマス会

不測の事態に備えて、マキノ駅西自治会と防災訓練を実施し、共助できる体制をつくっています。



ふじみ寮祭り

ふじみ寮祭りや茶摘み、クリスマス会や餅つき等では、高島市赤十字奉仕団・地元のこども園・民生児童委員・中・高等学校の学生や地元住民の方々の協力で行っています。



防災訓練



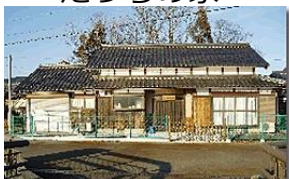
茶摘みの様子



藤美寮の魅力（地域の中で暮らす）

グループホームは、障がいがあっても地域の中で、自分らしく暮らせる場所

たちの家



法人初の夜間支援付きグループホーム。マキノ町知内にあり、現在4名が利用。
(平成17年4月開設)

羽ばたき



法人2か所目の夜間支援付きグループホーム。マキノ町西浜にあり、現在7名が利用。
(平成18年4月開設)

あっとホーム



法人3か所目の夜間支援付きグループホーム。今津町日置前にあり、現在4名が利用。
(平成20年4月開設)

箱館ハウス



法人4か所目の夜間支援付きグループホーム。あっとホームの隣りにあり、唯一の2階建て住居。現在4名が利用。
(平成23年2月開設)

高木浜ホーム



法人5か所目の夜間支援付きグループホーム。高齢障がい者を対象とし、介護保険制度にも適応できる施設。マキノ町高木浜にあり、現在4名が利用。
(平成27年1月開設)

5ホーム共、バックアップ施設である藤美寮から車で10分圏内にあるため、容易に情報共有や連携が取れます。この協力体制により安心して生活を継続することができます。





藤美寮の魅力（個々の特性に合わせた活動）

家庭や地域での暮らしが困難な方に寄り添いながら暮らす居場所

●一人ひとり個性があり、過ごしやすい環境等を整えながら、安心・安全の生活を支えています。

●本人だけでなく支える家族の不安や負担も軽減

生活介護・施設入所支援

重度障がい者への対応

・障がい特性を理解し、本人の強みを生かし、その人らしい生活を支援します。

在宅障がい者への対応

・入所施設の強みを生かし、在宅生活が継続できるよう、ニーズに応じた支援をします。

高齢障がい者への対応

・高齢化・老化等による多様なニーズを把握し、安心して安全した生活が送れる環境に努め、利用者に寄り添った支援をします。

緊急時の対応

・不測の事態に備え、各種マニュアルを整備し、関係機関との連携のもと支援をします。



日中一時

- ・利用者の日中における活動の場を提供します。
- ・障がい者等の家族の就労を支援します。
- ・日常的に介護をしている家族の一時的な負担を軽減します。

短期入所

- ・障がい者が重度化し、在宅生活が困難になった際に、入所施設の強みを生かして受け入れ、生活のリズムを整え、専門的な支援により障がいを軽減します。
- ・日常的に介護をしている家族の一時的な負担を軽減します。（レスパイト）



通所事業：アンフィニの魅力（憩いの場の提供）

高島市安曇川障害者デイサービスセンター「アンフィニ」は平成18年4月より、高島市から指定管理を受けて、社会福祉法人たかしま会が運営し、地域活動支援センター事業(創作的活動・社会適応訓練等)や入浴サービス等を行っています。

アンフィニ (Infini) とはフランス語で「無限」を意味します。アンフィニに通所して、「生きがい」や「楽しみ」等、無限の可能性や喜びを見つけてもらえるように日々支援をしています。



料理教室



お花見ドライブ



音楽教室



創作活動

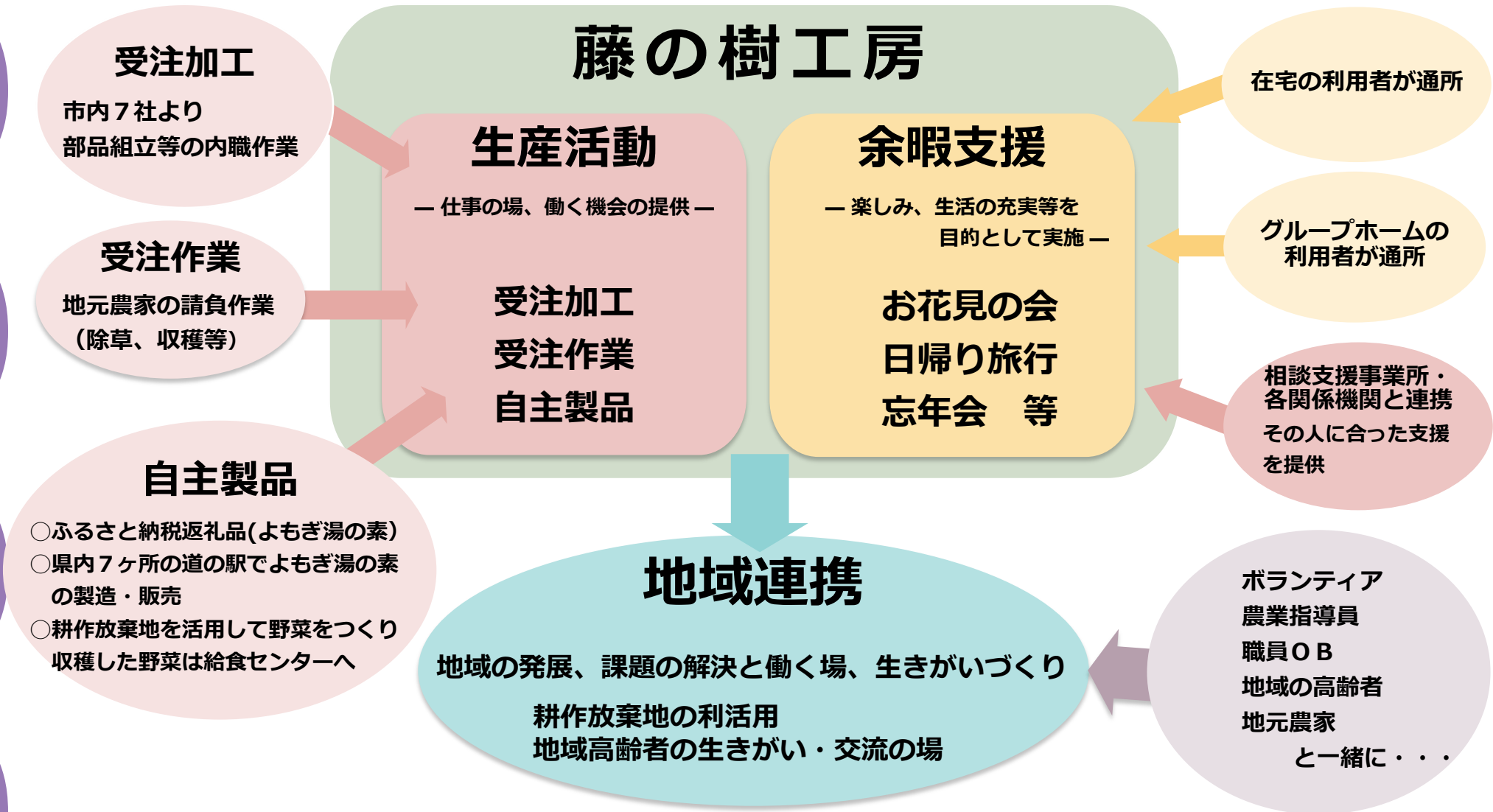


書道教室



Ⅱ. 事業の強み：藤の樹工房（就労継続支援 B 型事業所）

本人の能力や障がい特性に合わせて、活動の目的づくりや豊かな生活を実現。地域との協働の拠点となる。





藤の樹工房の魅力（能力、希望、特性に合わせた支援）

将来的に一般就労をめざすグループ

仕事の楽しさや生きがいを見出すグループ

通所することで生活リズムを確立するグループ

支援の3本柱・・障がいの種別にかかわらず、その人のニーズに応じた支援を提供しています

生産活動

市内7社からの内職作業や自主製品「藤美人の湯」製造等、仕事の種類が豊富です。就労を目指す方の訓練の他、その方に合わせた内容で作業をしています。また、耕作放棄地を使って、地域の高齢者と交流しながら野菜を栽培したり、農家の畑に行き仕事を手伝ったりと、農業にも力を入れています。これらの生産活動で得た収入は、利用者の「工賃」となります。



藤美人の湯（よもぎ湯の素）



自閉症支援



100個を数える工夫です



地域の農家と交流
—農福連携にも取り組んでいます—



内職作業の様子

能力や障がい特性に合わせた支援

利用者それぞれの能力や障がいに合わせ、就労移行への支援をはじめ、自閉症支援や自助具・環境の整備等、個別支援を提供しています。利用者が働く喜びを見つけ、毎日の暮らしが豊かになるよう日々提案を続けています。

余暇支援

藤の樹工房は、余暇支援も充実しています。お花見の会や忘年会等、季節に合わせた行事を楽しんでいます。また、たくさんのボランティアに支えられ、野菜の苗植え作業やパソコン教室等、利用者が地域の方と触れ合ったり、教養を高める機会を提供しています。



桜をバックに記念撮影



藤の樹工房の魅力（活動を充実させる多くの関係資産）

● 地域の方々

農業指導や耕作放棄地の活用等は、私たちにとって、なくてはならない存在です。

● ボランティアの方々

事業所のイベントへの出演や教室の講師・農作業の共同作業等、利用者の充実した日中活動や交流の場となっています。

● 内職等仕事の取引先

高島市内の事業所や農家等から多くの作業を請け負っています。この作業の収入が工賃となり、利用者の生活を支えています。

● 自主製品の販売先

市内3か所の道の駅では、藤の樹工房の自主製品「藤美人の湯（よもぎ湯の素）」の販売をしています。その他、耕作放棄地を活用して栽培した野菜は給食センターに納品し、地元の小中学校やこども園の子供たちの給食の食材となっています。

● 行政（高島市）他

藤の樹工房の自主製品「藤美人の湯（よもぎ湯の素）」は、高島市のふるさと納税返礼品になっています。

Ⅲ. 人的資産

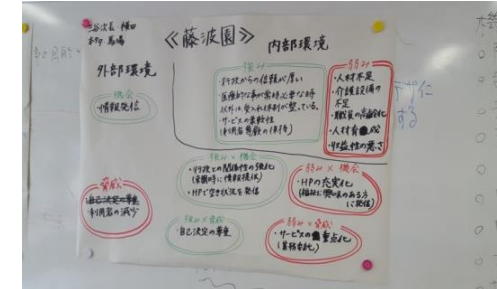
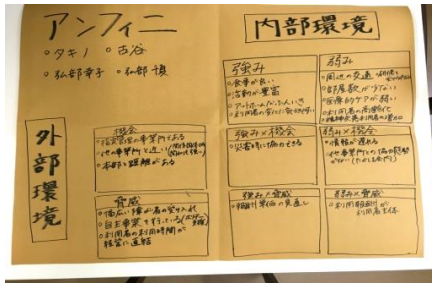
法人本部

事務局長

「法人理念」が職員の一人ひとりに根付き、利用者や地域の皆さんに信頼される法人であり続けたいと願っています。そのため、本部機能を充実し、事業所間の連携をさらに充実させ、従来の枠にとらわれない法人運営を目指したいと考えます。この度、これまでの50年の歩みを振り返り、今後の法人の方向性を各事業所の職員と共有できたことを感謝します。

事務局員

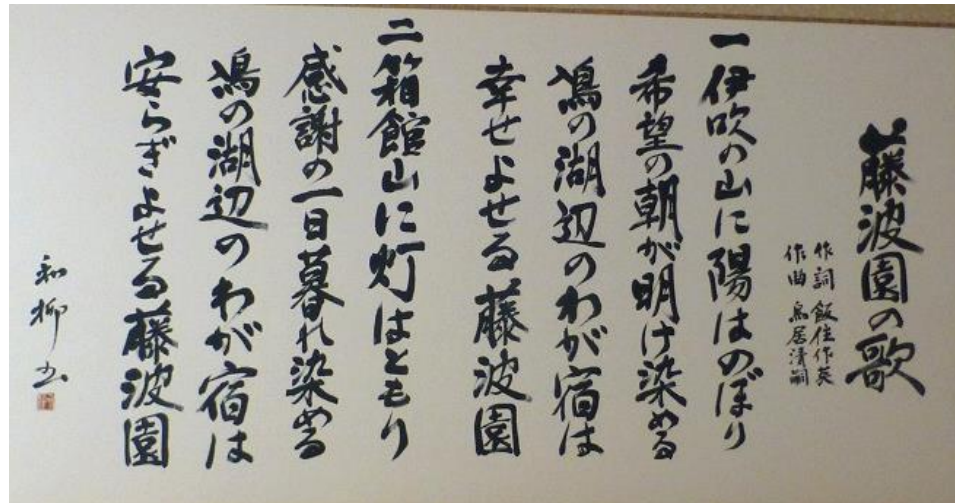
計画策定に当たり、職員間で事業所の強み・弱み・外部環境を出し合う所から始め、基本方針（ビジョン）・行動計画（アクションプラン）について、何度も検討を重ねながら、この度第1期中期経営計画を策定する事が出来ました。今後は、この掲げた目標を共有し、その達成に全職員一丸となって相乗効果を発揮しつつ取り組んでいきたいと思ひます。そして、利用者・家族・地域の方々から信頼される法人を目指して進んでいきたいと思ひます。



高齢者を支える人的資産

藤波園

緊急避難を必要とされる人の受入先としての藤波園で「ここに来てよかった」「ここで生活が送れてよかった」と思えるサービスの提供を心掛けていきます。そのために、研修体制の充実を図り人材育成に力を注ぎ、サービス向上に努めたいと考えます。



陽だまり



在宅サービスの要として利用者が生きがいを持ち、家族が安心して在宅介護が継続できるよう支援します。経験豊富なスタッフにより、介護度が上がってもニーズに応じて各サービスをコーディネートします。



介護員・支援員

入居者が生きがいを持って生活できるよう支援します。また、要介護となった全ての入居者が、安心して生活できるよう介護サービスを提供できる体制をつくります。



季節の食事（秋）

栄養士・厨房職員

栄養士および厨房職員が一丸となって、利用者の体調や特性に応じた安全な食事を提供します。また、季節の移り変わりを感じられる等の利用者に喜ばれる食事の提供に取り組みます。



障がい者を支える人的資産



藤美寮寮長

職員それぞれ入職動機は様々ですが、縁あって集まった『チーム』です。職員・利用者が互いに認め合い、共に笑い、時には共に涙し、また励まし合いながら日々研鑽しています。利用者は勿論の事、地域の方々との繋がりも大切に、地域の駆け込み寺のような役割を担っていきます。そのためには、職員一人ひとりの力が大切な資産となります。「心」「智」「技」を結集し更にチーム力を高めていきます。



藤美寮次長

障害支援施設藤美寮は、開設から40年以上が経過しました。当時若かった利用者の高齢化が進んだだけでなく、現在障がいの種別も多岐に渡り、重度化も顕著に見られます。そのため、それぞれの状態や障がい特性にあった個別の支援が必要で、職員にはあらゆる面の研修で技術や知識の習得が求められます。これからも利用者の安全安心な生活や質の高い暮らしのため、専門的な支援のできる施設づくりを目指していきます。



藤の樹工房

藤の樹工房でサービス管理責任者として勤務し、それぞれの利用者さんが満足できる生活の実現を目指して、日々、サービスの質の向上に取り組んでいます。私が仕事にやりがいを感じるのは、利用者さんの笑顔です。作業や生活の悩みを相談され、一緒に考え、それが解決した時の笑顔。これが、私の元気の源となります。これからもずっと、いつも利用者さんの近くにおいて話しやすい、そんな職員でありたいと思います。



グループホーム

藤美寮のグループホームでは、現在5ヶ所で23名の方が生活されています。特徴としては、全てのホームにおいて夜間支援があることや高齢者に特化したホームがあることです。その生活を現在21名のキーパーが支えており、利用者一人ひとりに対して愛情いっぱい支援してくれています。今後益々高齢化・重度化が進むため、研修に力を入れることで更に多くの方が地域生活を実現できるよう取り組んでいきます。



藤美相談支援事業所

8年に渡る相談業務での経験と社会福祉士や精神福祉士の資格取得で得た知識を元に、利用者の課題やニーズに対して中立な立場で計画作成を心がけています。障がい特性や生育歴等アセスメントを大切に、これからもご本人と丁寧に話し合い希望する生活に繋がるようサポートしていきます。



アンフィニ

通所者の利用目的は、創作活動や日中の居場所づくり、生きがいづくりや困りごとの相談等様々です。常に満足していただけるよう毎月40種類以上の活動を用意し、利用者には喜ばれる支援を常に目指しています。いつも笑顔でお迎えし、笑顔でお見送りすることをモットーに、専門性を発揮し、職員一丸となって取り組んでいます。

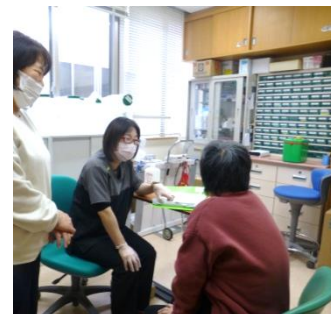
障がい者を支える人的資産

生活支援員



重度障がい者が多数在籍する藤美寮では、若手からベテランまで様々な支援員が利用者の日々の生活を支えています。支援員同士は仲が良く、それぞれが持ち前の得意分野を活かして支援の充実に努めています。また、利用者寄り添う気持ちを大切に、真剣に向き合いながら、多様化する障がいの専門性を高めることで、より良い支援を目指し、切磋琢磨しています。

看護師

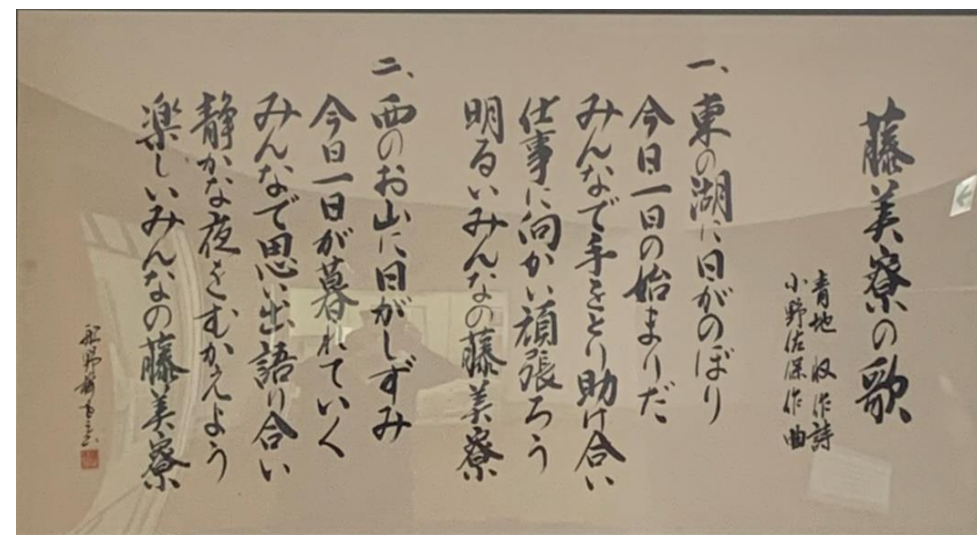


利用者の方の元気な声や笑顔に励まされ、パワーをもらいます。しかし、高齢化に伴い通院頻度も高くなっており、利用者の中には、疾病に対する自覚は薄く自ら訴えることができない方もいます。日々の生活の中から健康状態を読み取り、早期発見・早期治療に努めていくことが大切だと思っています。看護師として、利用者の方が心身共に健康で楽しい生活がいつまでも送れるよう心がけます。

栄養士



「安全・安心でおいしい食事」を基本に、時にはバイキング形式、時にはフランス料理等、各部署の能力を最大限に活かして、食事提供をしています。不可能と思われることにもチャレンジし、利用者の笑顔と才能に出会えた時の喜びは職員のパワーにつながり、次へのステップへと向かうことができます。障がい特性や高齢化に伴い食事形態等も多様化していますが、これからも一人ひとりが喜びを感じられる食事を目指して取り組んでいきます。



人材育成の仕組み

事業所ごとの主な研修

障害福祉関係

(藤美寮)

- ・リーダー養成外部出向研修
- ・発達障害支援者養成クラスルーム
- ・自閉症支援実践セミナー
- ・権利擁護研修
- ・感染症予防研修
- ・強度行動障害支援者養成研修
- ・サービス管理責任者研修
- ・救命講習
- ・リスクマネジメント研修
- ・ストレスマネジメント研修
- ・交通安全研修

(藤の樹工房)

- ・発達障害研修
- ・行動障害研修
- ・視察研修（県内他事業所を視察）
- ・強度行動障害支援者養成研修
- ・サービス管理責任者研修
- ・精神保健福祉センター研修会

老人福祉関係

(藤波園)

- ・感染症対策研修
- ・虐待防止研修
- ・介護職員研修
- ・介護支援専門員専門研修
- ・認知症介護基礎研修
- ・認知症介護実践研修
- ・認知症介護実践リーダー研修
- ・権利擁護推進員養成研修
- ・身体拘束廃止セミナー

(陽だまり)

- ・認知症介護基礎研修
- ・認知症介護実践研修
- ・認知症計画作成者研修
- ・介護支援専門員更新研修
- ・高齢者虐待研修
- ・BCP研修

キャリアパス

(人事考課制度)

職員の仕事の成果、意欲および能力を正しく評価することにより、その評価を昇格、昇給、降格および勤勉手当の支給や教育訓練に活用することで、職員の能力、資質および士気向上に努めています。

その他の制度

(ハラスメント防止対策)

すべての職員に対し、雇用管理上講ずべきハラスメントを防止するための措置およびハラスメントが生じた場合の措置として、相談、苦情処理窓口等を設置しています。

(人材育成・処遇改善制度)

社会福祉充実計画を策定し、職員自らが実施する、職務に直接的または間接的に効果を生むことが期待される研修や心身の健康の増進のための活動への助成金制度を設けています。

(表彰制度)

すべての職員に対し、勤続年数に応じた表彰の制度を設けています。

(継続雇用制度)

一定の基準を満たす正規職員に対し65歳までの継続雇用を認めています。

(職員親睦会への助成)

すべての職員で構成する「たかしま会職員親睦会」に対し補助金を交付しています。

IV. 現在及び今後の課題

● 外部環境の変化

- ・ 国内人口減少と世界人口の増大
 - 国内総人口の減少、生産年齢人口の減少による日本経済の停滞や縮小リスクが高まる。その結果、従来の社会経済システムが見直され、社会保障制度の見直し、食料資源の競争、国と地方の関係の変化、国際関係、エネルギー・環境問題等の摩擦が増大する。様々な人的資源、経済活動等の偏在と集中が生じる。障がい、高齢者事業を取り巻く環境変化に適切に対応していく洞察力と中長期経営力が一層重要となる。
- ・ 市民意識の変化、家族関係の変化、地域社会の変化
 - 障がい者本人、介護を必要とする高齢者本人のニーズや生き方に沿った暮らしの在り方が求められていく。
- ・ 社会保障制度改革の方向性
 - 高度・重度な医療介護の必要な人への財源の集中と軽度から中度の障がい者・要介護者には、共生社会・地域社会による効率的な支援が中心となる。

● 地域の課題

- ・ 高島市の人口減少、高齢化が進む
 - 障がい福祉、老人福祉の担い手不足、利用者の減少、事業者の縮小による仕事の減少が予想される。
 - 農業の担い手不足、高齢化による耕作放棄地の増加、生産力の低下のリスクがある。
 - 障がい者の親の高齢化や親なき後の生活困難者が増加する。
 - 独居要介護高齢者が増加する。

● ロボット技術、IT技術、AIの進化

- ・ これまでにはなかったロボットの活用、ITやネットワーク技術の革新、AIによる革新技術が開発される。
 - 人手に頼ったケアから新しい技術の活用によるケアやマネジメント手法が出現する可能性がある。

● 内部の課題

- ・ 制度に沿った運営でよかった経営システムであり、将来ビジョンやミッションが明確でなかった。
- ・ 法人本部機能が十分でなかった。
- ・ 障がい福祉事業と老人福祉事業の相乗効果がまだ発揮できていない。
- ・ 採用から人材育成、後継育成までの人事労務マネジメントが旧来のままである。

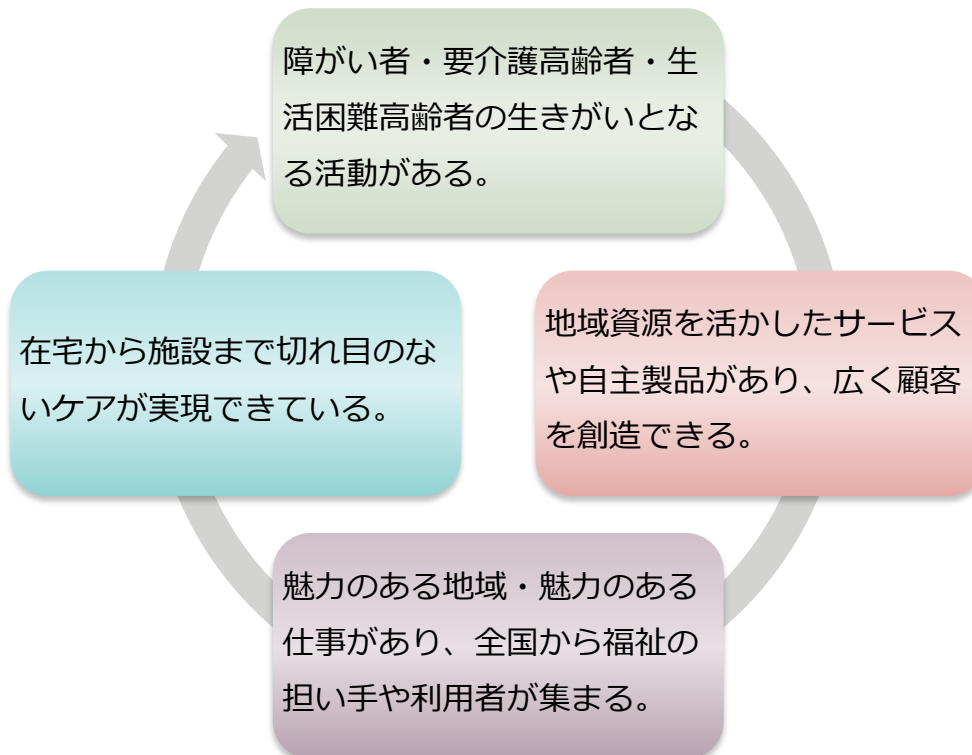
V. 私たちが実現したいこと

法人メッセージ：求める福祉がここにある 地域とともに 福祉を創る たかしま会

経営資源（強み）

- 障がい福祉サービスで、在宅から施設サービスまで多様なサービスを提供する仕組みと人材を持っている。
- 障がいと高齢者の事業を一体的に行える施設と人材・ノウハウを持っている。
- 地域の農業やサービス業の担い手となる人材を持っている。
- 地域の魅力を創造する自主製品を持っている。
- 地域住民の協力を得て、地域の活性化を共に行っている。

福祉と地域経済の両立モデル



提供価値

- 制度の変更や社会変化があっても、軽度から重度の障がい者・要介護高齢者が安心した暮らしが継続できる。
- その人らしい生き方に日常の喜びや笑顔が溢れている。
- 独居や親の高齢化でも、長く地域で暮らせ、最後の受け入れ皿の役割を担う。
- 利用者の喜びや笑顔が職員の遣りがいや楽しさとなる。
- 豊かな自然に囲まれながら、いつまでも地域で働ける暮らしができる。

成長戦略：たかしま会ブランドのケアサービス、商品で地域の魅力を発信

資源の調達

- 地域福祉ニーズ調査と地域貢献事業の充実。
- 研修による技術・知識の強化と福利厚生充実。
- 耕作放棄地の活用。
- 地元ボランティア・芸術家・大学生と連携し、SNSを活用したブランド力の強化。
- 地域の観光資源の魅力発信。

今後の取り組み

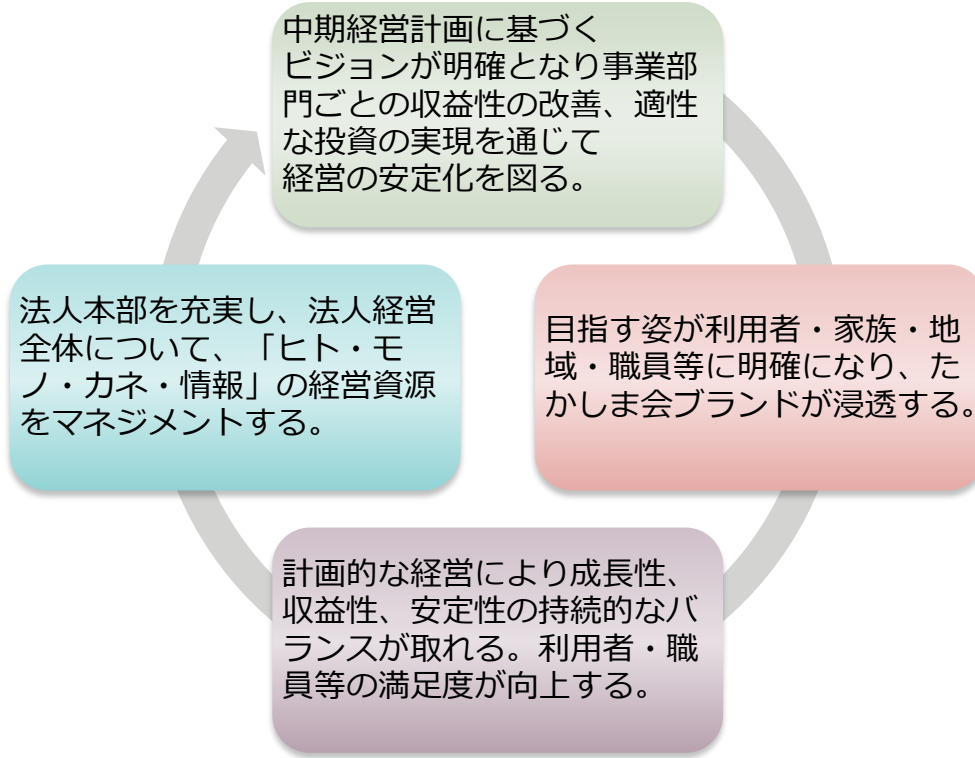
- 共生社会の実現に向けた新たな活動プログラム。
- 最新技術や知識の活用による魅力ある職場づくり。
- 地域資源を活用した商品開発。
- 地域住民と共同で行う自主商品の販売ネットワーク。
- 魅力ある地域づくりと情報発信力。

目指す姿（法人本部）

経営資源（強み）

- 社会福祉法人として設立50年を超える法人運営の実績をもとに老人福祉事業と障がい福祉事業の両面から事業展開し、高齢者や障がい者の生活の支援にかかる多様なサービスを行っている。障がい者の支援においては、法人内でほぼすべての支援が完結できるシステムが構築できている。
- 財務体質が良い。
- 地域とのつながりも良好で、各事業所ともに地元住民やボランティアとも密接している。

ビジョナリー経営モデル



提供価値

- 制度の変更や社会変化があっても、たかしま会の質の高いケアが継続できる。
- 必要とされる人々や地域に、たかしま会の福祉サービスを持続的に提供できる。
- 職員の満足度が高く維持され、働きがい・生きがいのある生活ができる。
- 利用者や地域の新たな福祉ニーズに対応し、新規サービスに取り組む。
- 地域福祉、地域活性化に向けた地域貢献事業を積極的に取り組む。

成長戦略

資源の調達

- 法人本部職員体制の確立。
- 経営力の強化。
- 新たな地域貢献事業を構築。
- 新規事業（高齢・重心対応型施設）の増設の実施。
- 新技術の活用による魅力のある働き方の仕組み等。

今後の取り組み

- 法人本部事務局体制の充実。
- 経営理念の明確化。
- トータルな人材マネジメント。
- サービスの質の向上。
- 老人福祉施設と障がい者施設の併設の強みを活かす。

目指す姿（藤波園：養護老人ホーム）

尊厳のある生活の場と経営の安定を目指して

経営資源（強み）

- 経済的・家庭的に困窮した高齢者のセーフティネットとなっている。
- 特定施設として要介護になっても入居を継続できる。
- 職員に、虐待、困難事例の人を受け入れるスキルがある。
- その人の尊厳を守り、生きる楽しみ、社会的な交流の場が活発にある。
- 外出が自由にできる。
- 転倒防止等機能訓練に取り組んでいる。
- 障害者施設と併設で地域活動が共同でできる。
- 最期まで尊厳のある支援をする。(葬儀式・納骨堂)

高齢者支援施設モデル

要介護となる入居者は増加傾向であり、これに対応した事業運営を実施する。このことにより安定した経営を行う。

全ての介護職員が認知症の理解、生活機能向上の知識と支援スキルを持っている。

特定施設事業所として、訪問介護サービス等を活用し、要介護となっても安心して生活できる。

魅力のある仕事・魅力のある職場・魅力のある職員が増え、たかしま会を目指す人が増える。

提供価値

- 生活面で自立した高齢者と要介護高齢者が混在しているが、それぞれに応じた支援プログラムが提供されている。
- 自立支援、介護サービスに精通した人材が豊富である。
- 人材育成の仕組みがある。
- 他事業所の理学療法士等の専門職と連携し、積極的に機能訓練、生活機能向上を行っている。
- 経営面では持続的な設備投資、人材投資を行うための収益性を確保している。
- 法人内の連携が進んでいる。

資源の調達

- 自立できる人の生きがいや喜ばれる活動を行っている。
- 採用力の強化のため、職場や仕事の魅力を情報発信している。
- 自法人内でケアマネジャーを育成する。（法人で5人を目指す）

成長戦略

今後の取り組み

- 採用力を高めるための情報発信のツール、内容を見直す。(HP,SNS)
- 人材育成を計画的に行う。
ケアマネジャー等資格取得への支援を行う。
- 自立している入居者の活動の場を工房等と一緒に作る。
- 行政との連携を強化し、養護老人ホームでの活動の理解、早期支援の必要性を訴えていく。

目指す姿（陽だまり：小規模多機能型居宅介護）

経営の安定と住み慣れたこの町に求められる支援が提供できる施設に

経営資源（強み）



在宅ケアと経営の持続モデル



提供価値

- 地域の在宅介護の要と言われる小規模多機能型施設を運営している。
- 設備が充実：入浴設備（2機の間接浴がある）・畑（約200㎡）がある。
- 多様な行事：外出・外食等、柔軟な支援をしている。
- 地域交流の場：地域サロンへ参加している。
- 直営厨房で、自家野菜等の食材を使い季節感がある美味しい食事が食べられる。
- 洗濯サービス等の付加サービスがある。

小規模多機能型ならではの柔軟なサービス、多様な活動が魅力となっている。

医療機関、老健、地域包括、ケアマネジャーから新規利用者の紹介ルートが確立されている。

全ての職員が認知症の理解、生活機能向上の知識と支援スキルを持っている。管理者は適切な経営管理能力がある。

魅力のある仕事・魅力のある職場・魅力のある職員が増え、たかしま会を目指す人が増える。

- 地域に暮らす要介護高齢者が、認知症が進んでも、独居となっても住み慣れた地域や我が家で長く暮らせる介護サービス（通所、訪問、泊り）を複合的に提供する。
- 急な泊りや食事時間等、柔軟なサービスを組み合わせることで本人と家族が使いやすいサービスを提供する。
- 適切な人員配置、費用バランスを取ることで持続可能な経営を実現する。

成長戦略

資源の調達



今後の取り組み

- 小規模多機能型ならではの柔軟性、多様性を活かしたサービスを開発し提供する。
- 地域活動への協働参加が定着する。
- 地域ケアの啓発による早期相談、早期利用の仕組み。
- 新技術の活用による働き方改革や人員管理の仕組み。

- ケアマネ事業所とのネットワークを広げていく。
- 市内病院等へのアプローチを強化。
- ブログやホームページの随時更新による魅力の発信。
- 所内研修会の充実による人材育成。
- 適正水準のケアプランの実施、加算の適正管理。
- 収支のバランスを継続的に取る経営管理の強化。

目指す姿（藤美寮：障害者支援施設）

障がい福祉事業全体を支える仕組みの強化により、利用者一人ひとりに適した豊かな生活の実現

経営資源（強み）

- 入所・通所・短期入所・グループホーム等、障がい者の様々な困難に対応できるサービスを提供している。障がい者の最後の砦として困難事例に対応できる。
- 発達障がい者の支援に取り組んでいる。
- ボランティアや地域との交流が活発。
- チームワークのよい職場風土のため働きやすく職員の満足度が高い。
- 地域の障がい者も藤美寮を利用することで緊急対応が確保され、安心して生活が継続できる。

障がい者支援トータルモデル

障がいの種類、発達障がい等領域別理解、介護者支援等総合的な理解と支援ができる人材を育成する。人材育成に優れた事業所として魅力を発信していく。

住み慣れた町で地域の人と共に、その人らしい暮らしが実現される。

多様な障がいサービスによる対応と施設機能の更なる拡充。
(高齢・重心対応型施設)

魅力のある仕事・魅力のある職場・魅力のある職員が増え、たかしま会を目指す人が増える。

提供価値

- 障がい者の最後の砦として困難事例に対応し、地域に専門性を発信する。
- 地域生活支援事業の立ち上げ。
(グループホームのサテライト型・行動障がい対応型等)
- 職員の満足度が高く維持され、働きがい、生きがいのある生活ができる。
- 医療対応型支援事業を立ち上げる。
- 地域福祉・地域活性化に貢献する地域貢献事業に積極的に取り組む。
- 精神障がい者に特化した施設づくりをし、サービスの充実を図る。

資源の調達

- 入所者の重度化、高齢・重心に対応できる設備、人材を再整備する。
- それぞれの障がい特性に特化した支援体制と緊急時支援の仕組みを構築する。
- 発達障がいの知識やスキルを持った職員を育成する。
- 作品づくりや販売PRに利用者や職員等の特技を活かす。
- 地域の障がいへの理解をさらに深める。

成長戦略

今後の取り組み

- 利用者の高齢化に伴い、高齢・重心対応型事業を展開していく。
(共生型)
- 「たっちの家」の老朽化に伴い改築を行う。
- 高齢障がい者の藤波園への利用を含めた合築のメリットを検討。
- 地域住民と協力し、共生社会のひとつのモデルを目指す。
- 計画的な人材育成の仕組みを構築する。



目指す姿（藤の樹工房：就労継続支援 B 型）

自分らしさを再発見！ 働く喜びを見つけよう

経営資源（強み）

- 3つの支援方針（支援の3本柱）
 - ・自立した、就労移行を目指す人への支援
 - ・仕事の楽しさや生きがいを見い出したい人への支援
 - ・毎日通所することで、規則正しい生活ができるようにしたい人への支援
- 伝統ある自主製品（よもぎ湯の素）が安定した収入源になっている。
- 地域とのつながりが構築できつつある。（農福連携・内職・企業・道の駅・地域の人等）
- 知的・精神等多様な障がい者を受け入れている。
- チームワークが良い。
- 法人内の連携が取れる。

障がい者就労支援モデル

提供価値

藤の樹工房で働きたいという障がい者が広く通ってきたり移住し、地域産業の担い手が増える。

多様な障がいを持つ人に対応した支援策があり、その人や家族の暮らしに欠かせない就労支援サービスを継続する。

地域との連携により魅力的な自主製品が生まれ、新たな地域資源となる。農地の有効利用による自然保護・農産品の生産力が上がる。

魅力のある仕事・魅力のある職場・魅力のある職員が増え、たかしま会を目指す人が増える。

- 一人ひとりの障がいの違い、ニーズに応じた就労支援ができる。
- 景気や企業の経営動向に影響されにくい自主製品の開発・販売ができる。
- 地域の耕作放棄地を利活用し、地域資源を活用した農産物を生産している。
- 地域活性化の担い手として、生き生きと地域で暮らす障がい者が、職員や地域住民の元気をもたらす。
- どんな障がいがあっても、その人らしい暮らしができる地域となり、住民の満足度、地域の魅力が高まる。
- 地域の人たちが、支援者として様々な関わりを自然に持てる。

資源の調達

成長戦略

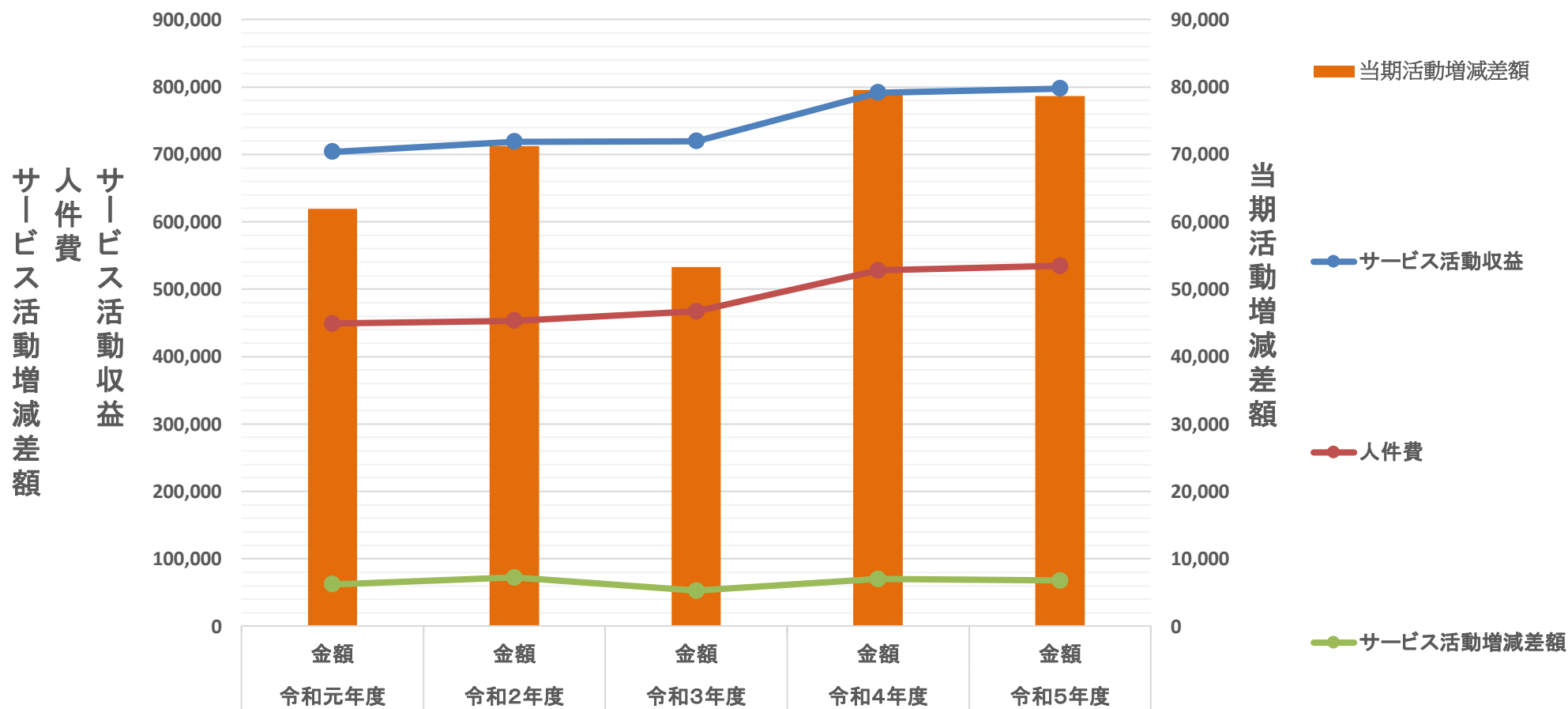
今後の取り組み

- 3つの支援を着実に実行する事業計画の作成。
- 職員の特技を活かした活動と、その定着の仕組みをつくる。
- 藤波園や藤美寮の利用者で、自立度の高い人や活動を希望する人が参加できる仕組みづくり。
- 養護学校の卒業後の居場所、精神障がい者の退院後の居場所として周知する。

- 新規利用者の獲得、開所日の見直し、職員のスキルアップ等、経営計画指標を用いて分析し実行する。
- ネットショップを開設。新製品（ヒノキ風呂の素、焼杉等）を開発する。
- 耕作放棄地と高齢者の増加という地域課題解決と、障害者支援施設との交流を付加価値とした独自ブランド野菜を開拓する。
- 農産物の仕分け等に藤波園の利用者をボランティアとして招き、回想法を活用した交流の場とする。

中期財政計画（概要）（令和元年～令和5年度）

法人全体



1. 魅力発信経営報告書は、「知的資産経営の開示ガイドライン」をベースに「経営デザインシート」による未来の目指す姿を示す医療と介護事業者向けの経営報告書として作成しました。

「魅力発信経営報告書」は、数値では表わしにくい経営資源＝知的資産を利用者・職員・取引先等といった関係者に対し、事業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、事業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する報告書です。

2. 「知的資産」とは、決算書等に記載されている資産以外の無形の資産であり、事業者における競争力の源泉である人材・技術・技能・知的財産（特許・ブランド等）・組織力・経営理念・利用者とのネットワーク等、財務諸表には表れてこない目に見えにくい経営資源の総称を意味します。この魅力発信（知的資産）経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込み等は、すべて当事者の判断にて記載しております。そのため、将来に亘り当法人を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容等を変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。

よって、本報告書に掲載した内容や数値等を当法人が将来に亘って保証するものではないことをご了承願います。

3. 魅力発信経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につきその客観性を維持・向上させる趣旨から次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

社会福祉法人 たかしま会

作成者：令和2年度 経営計画策定部会

支援者：株式会社TASK経営 中小企業診断士 大石孝太郎



社会福祉法人たかしま会 魅力発信経営報告書

令和3年4月発行